（軍機局認可）

（日曜日休刊）　（定價金二錢）

時事新報

時事新報定價
一部一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓
一箇年前金六圓
○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ發送スルモノニ限リ本文定價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金一行ニ付

	一行廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上
自一行至十行	錢	八	錢	錢	錢
自十一行至三十行以上	錢	七	錢	錢	錢
	錢	六	錢	錢	錢
	錢	五	厘	厘	厘
	錢	五	錢	錢	錢
	厘	八	厘	九	八
	毛	五	毛	五	毛
	五	五	五	五	五
	錢	五	錢	五	錢
	五	五	五	五	五
	厘	厘	厘	厘	厘

第千四百八十三號
明治二十年一月十二日　水曜日
書丙戌十二月十九日　（丁丑）
日出七時十二分　日入午後五時零五分
月出午後八時四十一分　月入午前四時六分
潮汐午後七時二十九分
（西暦一千八百八十七年）

時事報報

男兒須らく獨立せべし

人あり後進書生の氣風柔弱にして振はざるを嘆して曰く甚哉當世書生の振はざるや其身体の薄弱にして志操の堅固ならざるは論なく第一其目的甚だ卑近にして遠圖なく畢生の艱難を恐る所は官に仕へて執金吾たるに過ぎず明らかに老成に風と氣取りて徒らに空理に喋々し時としては先進權貴の門に候ち巧言令色只管その一顧を恭うせんのみを希ひ其擧措恰も幇間者流の如き幸ひに地位を得て囊中少しく餘裕を生ずれば忽ち花に歌ひ月に咏じて婦人女子に驕らんとす何ぞ志の卑近なるや今の書生の氣風如何は後來日本社會に進歩に關する所少なからざるがゆゑに宜しくその柔弱卑劣なる弊風を一洗し廉恥を貴び名節を重んずる風と養成せざるべからずとて頻りに慷慨歎息するものあり我輩も今の書生の氣風の柔弱なるを慨歎するの一段に其人の說と同感なるのみならず寧ろ之を慨すること一層深きものあれども名節廉恥云々など古風の筆法を以て今の書生の弊風を回復せんとするの策に至ては之に同意を表する能はざるものなり昔し封建の世、戰國の餘習猶ほ存する在上の人は士に下るとて己れの高きを屈して民間の人材を愛藏し以て愛士の名を得んと勉めたる時代に於ては士たるものよりも亦擧動を非凡にして一世を蔑視し蓬頭粗服、王公と並び立つと恥とせず時に或ひは虱を捫て貴人に前に謳笑する等の事も却て世に爲す珍重せられ高節清廉あるの美稱と博す一方は愛士の名を得一方は高潔の稱を博し表面より之を觀るときは甚だ立派なるが如くありしと雖ども文明開化漸く進歩せず人事の關係漸く繁多錯雜を增し往來交際世界の廣きに亘るれ今日に當ては社會の組織上より於て迚も斯る粗暴野鄙なる擧動を許るすべからず畢竟その說の如きは當世書生の柔弱なる有樣を對する一幅の圖畫として見るべきものにて到底實際に行はるべきものと知るべし

抑も當今の書生は其志卑近にして氣慨の振はざるは元來一身の獨立せざるが爲なれば之を醫するの方法は其をして獨立せしむるの外なる可らず目下日本の社會には民間の事業甚だ少なくして書を讀む者の差當り手寄るべき道は官途に外數少なきとするも既に其志を獨立と決するときは何事か成らざるものあらん國內果てし事業に乏しきか宜しく去て外國に行くべし世界は甚だ廣し何くか往くとて一身を容るゝ能はざらんや況んや北米合衆國の如きは地廣く業多く恰も門を開て人の入來を待つ者あり何ぞ往て而して富貴を謀らざる今や競爭たる日本の小社會、限りあるの人を以て限りあるの業を求む、たとへ僥倖にして百中一の其志を得る者あるも僥倖は卿ち僥倖にして萬數に限りあれば他の九十九人い到底滿足と得ざる事あるべんされば國內に在て望む可らざるの僥倖を得んと欲し、得る能はざるに失望せんよりい向ず大に進んで安心の地位を國外に求めざる日本の國內狹少にして事業甚だ少なし といふと雖も一たび足を國外に蹈出せば世界到る處自由安樂の鄉あり功名富貴何を欲してか成らざらん勤勉十年功成り名遂るの曉は悠々餘生を海外自由の鄉に送むも亦可なり或は錦衣國に歸り故鄉の父老に誇るも亦一興あり男兒何ぞ局促として久しく無聊無事の小天地に蟄伏し強て婦女子の態を學んで世に窘れらるゝ事を求むべけんや須らく去て自由の天地に雄飛し以て一身獨立の計をなすべきのみ世人もし今の書生の柔弱なるを嘆せば廉恥名節云々の迂說を棄てゝ獨立の計をなさしめざる我振はざるを嘆せば廉恥名節云々の迂說を棄てゝ獨立の計をなさしめざる我何ぞ大に之を振作して一身獨立の計を先づ海外雄飛策を獻するものなり

官報

○公債償還　大藏大臣より昨十日東京府へ左の通達せり

新公債及金札引換公債元金償還ノ爲メ來ル十三日其府ヘ國債記錄兩局ノ官員出張抽籤執行爲致候條兩公債證書ノ所有者各十名以上ヲ選ミ立會トシテ同日午前第九時出頭候樣取計フベシ

○小學實業科設施景況　石川縣に於ては管下小學の教育上從來虛文に流るゝの弊あるを以て子弟をして實業飼育等學校に附屬地を設き耕耘の事に從いしむる等の實業科を修練せしめんが爲め學校の教室に割して蠶兒を飼育し蠶繭田民譯の花柳春話なるものされたる伊太利の鵝毛を造出せしが先づ其適當の教員を要するを以て一昨年來數回同縣農業講習所並に師範學校に於て各小學校長教員を招集し農業に關する諸科を講習せしめ昨年の始より中等小學以上の學校に於て農業實際の教習を施行え地方の老農等に就き從來の慣行を諮詢し之に學理を加へ理論慣行相並び偏重偏輕なきを期せしに其成績に至りては通常の農作に比し多量の收穫を得たり元來小學教育の虛文に流れ生徒の上級に進みたる者若くは卒業したる者は早已に父兄に家業を厭はしむ父兄は家業を厭はしむ一時は兒童として就學せしめざるに至りしが實業科を設施せし以來日尙淺きに拘らず父兄等或い實業地を寄附し或は新に兒童を就學せしめ大に此擧を贊成する者多し

○全世界に於ける移住　英國人ジョンオトイル氏は此程全世界に於ける移住の事に關して精密なる報書を刊行せり其要領は左の如し

最近の計算に據れば日下其本國の外に生息せる人民は都合千八百七十四萬八百三人にして各國移住者の最繁殖せる國は北亞米利加（合衆國及加拿陀）次は南亞米利加（墨西其國を含む）亞細亞、濠太利利及阿非利加あり然れ共移住者の最多き國は北亞米利加にして其數百万千九十八人に上れり又佛國に亞ぎて外國人の居住せること多き國及其移住人の數を擧ぐれば露國（芬蘭のみを云ふ）は三十一万四千三百七十五人、墨地利匈牙利國は二十七万六千七百三十一人、瑞典及諾威は二十九万三千三百十一人、瑞西國は二十一万千三百五十六人、白耳蘭國は十四万七千九百七十一人、伊太利國は五万九千九百五十六人、スカンヂナヴヤー國（丁抹、瑞典及諾威）は五万九百六十八人、西班牙國は四万千七百三人なり（オナイル氏は各國に於ける各國人と來往との關係を對照するの便に供せんがため佛國西及瑞西の二國を除くの外各國とも此外國移住者の數內國來住者の數を超過せり其詳細合即左の如し）墨地利匈牙利國の人口は三千七百八十八万三千七百人（住民二百八人に付き外國人一人の割合）あり之を外國に移住せる內國人の數は三十三万七千人に於て其中十一万六千人は佛蘭西に、十三万五千人は北米合衆國に、一万六千人は伊太利國に、一万六千人は阿非利加に移住せり然るに伊國內に居住せる外國人の數五万一千人（此中丁抹國に居住せる者三万三千及芬蘭人あり）に過ぎず且獨逸國人口四千五百二十万の內國人は七十九万五千人に移住せる者は北米合衆國に九万人、白耳義國に四万三千人、和蘭國に四万二千人スカンヂナヴヤー國に三万八千人、合計二百六十万一千人にして國民百人の中、外國に移住せる者は五万七の割合あるも內國に來住せる外國人の數は二十九万三千人に過ぎず但し此中、十一万八千人は瑞西人にして匈牙利國は一万七千人に過ぎず、大不列顛國は歐洲諸國の中、外國移住者の數最多き國あり蓋同國に於ては外國に移住せる者百二十万人の大數に達するも內國に來住せる外國人は僅に二十八万三千人にして多くは獨逸國及露國の商店雇人、教師、從僕、麵包師、技師、佛國の女婢等の數最多き國あり蓋同國に於ては來住外國人の數百万千九十人に上れりと雖外國移住者の數は四十八万二千六百六十三人に過ぎず斯の如き事例は實に佛國獨有のものにして瑞西國に於ても稍々之に類似せる特例ありと雖內國に於て來住者と移住者の差異僅に三千六百三十人に過ぎず想ふに佛國に於て斯の如き獨有の事情あるは其人口の增加極めて遲緩なるに基因するが如し伊太利國（人口二千九百三十六万一千）に於ては外國移住者極めて多く其數百七万七千に下らず而して其中四十万三千人は南亞米利加に、二十四万一千人は佛國に、十七万六千人は北米合衆國に、六万三千人は阿非利加に移住せり然るに伊國內に居住せる外國人は僅に六万人に過ぎず、芬蘭の分を除くの外に不完全なる統計書のみを刊行すれば移住來住の數とも分明あらずと雖獨逸國の調査に據れば露國人若くは波蘭人にして外國に居住せる者十四万八千人ありといふ（リ）西班牙國及葡萄牙國の人口は都合二千百八十四万三千九十三人にして外國に移住せる者都合四十五万三千人あり但し此中三十三万七千人は南亞米利加に、七万五千人は佛國に、二万八千人は北米合衆國に在り、瑞西國（人口一百六十三万五千）に於ては外國に移住せる者二十万七千人に下らずと雖然も亦國內に居住せる外國人二十一万一千人あり

一万六千人は伊太利國に在り一百年差國及盧森堡國（人口五百八十万）に於ては內國居住外國人の數、十四万五千五百人（住民二十九人に付き一千人に付き一人の割合）に過ぎずと雖外國に移住せる內國人は四十九万七千人にして此等の移住者は概ね佛國獨逸國等くは和蘭國に居住し或ては西國居住外國人の數五万一千人（此中丁抹國に居住せる者三万三千及芬蘭人あり）に過ぎずと雖外國に移住せる內國人は七十九万五千人の多きに上れり」獨逸國（人口四千五百二十万）の內國人に移住せる者は北米合衆國に九万人、白耳義國に四万三千人、和蘭國に四万二千人スカンヂナヴヤー國に三万八千人、合計二百六十万一千人にして國民百人の中、外國に移住せる者は五万七の割合あるも內國に來住せる外國人の數は二十九万三千人に過ぎず但し此中、十一万八千人は瑞西人にして匈牙利國は一万七千人に過ぎず、大不列顛國は歐洲諸國の中、外國移住者の數最多き國あり蓋同國に於ては外國に移住せる者百二十万人の大數に達するも內國に來住せる外國人は僅に二十八万三千人にして多くは獨逸國及露國の商店雇人、教師、從僕、麵包師、技師、佛國の女婢等の數最多き國あり蓋同國に於ては來住外國人の數百万千九十人に上れりと雖外國移住者の數は四十八万二千六百六十三人に過ぎず斯の如き事例は實に佛國獨有のものにして瑞西國に於ても稍々之に類似せる特例ありと雖內國に於て來住者と移住者の差異僅に三千六百三十人に過ぎず想ふに佛國に於て斯の如き獨有の事情あるは其人口の增加極めて遲緩なるに基因するが如し伊太利國（人口二千九百三十六万一千）に於ては外國移住者極めて多く其數百七万七千に下らず而して其中四十万三千人は南亞米利加に、二十四万一千人は佛國に、十七万六千人は北米合衆國に、六万三千人は阿非利加に移住せり然るに伊國內に居住せる外國人は僅に六万人に過ぎず、芬蘭の分を除くの外に不完全なる統計書のみを刊行すれば移住來住の數とも分明あらずと雖獨逸國の調査に據れば露國人若くは波蘭人にして外國に居住せる者十四万八千人ありといふ（リ）西班牙國及葡萄牙國の人口は都合二千百八十四万三千九十三人にして外國に移住せる者都合四十五万三千人あり但し此中三十三万七千人は南亞米利加に、七万五千人は佛國に、二万八千人は北米合衆國に在り、瑞西國（人口一百六十三万五千）に於ては外國に移住せる者二十万七千人に下らずと雖然も亦國內に居住せる外國人二十一万一千人あり

（以上本年一月十二日官報）

雜報

○米國內地巡遊日誌（一昨日は續）

十一月三日　晨起郊外を望見すれば草や霜滿ちて寒氣甚し霜中に篝火を取りつゝ行裝を終り進むと四英里路傍に大池を見る四面闊を以て圍ミ水青ふして清潔水上には鴨鳥類々遊泳ス池邊に大なる農家あり水面に臨む庭樹と共に水に映して白く又青く岸に繫ぎる小舟は蓋子の遊戲に供する物と思はる質に閑にして幽なる景織田民譯の花柳春話なるものされたる伊太利の鵝毛し計らず此美景に見とれて三人共に茫然イ立すること數刻夫より歩行すること五英里長坂峠あり登降四英里餘人家あり山頂にて大なる驚を見る漸くにして峠を下れば路二線に分る跳ぶを取るべきかを惑ひ人の來るを待つ日暮に到るも人の來るあし依て止むを得ず傍の草上にテントを張る此際農夫二人が綿羊數千頭を率ひ來るあり漸く取るべき路を聽き得たり此夜人家あきが爲め大に水に渴ス漸く近傍ゐ牛馬の飲ス充つる溜水を發見し渴を凌ぐ且晩餐を炊く

十一月四日　晨起進むと一英里山路續々顯れ愈進く益急なり且つ路に水なきが爲め渴を感ず歩行甚ず艱ひ遂ス六英里と歩し路傍遙に一家を認め水を乞はんとして赴きたるに人家ゐは相違あきゐ人の常ス住そる者ゐ一人あらず接するに時あるで農夫が業に近郊に來ず數日乃至數十日滯居して業を終れば去る者あるべき家の周圍にい家雞及七面鳥を養ひ犬二疋ありて之を保護せ也ひ却説余等水を求むるに傍ス小さき井あり即ち犬ゐ向ひ禮ゐ施し持する處の鍋に充て去る行くと六英里山中に一戶の旅亭あり尙四英里を歩せば日暮に沒せんとす依て山間の樹下にテントを張り寢を設く此日は旅行常に山路にして甚ず困難を覺へたり此より先きギルロイ迄の道は多少山路なきにあらずと雖も常に小丘に引きて左迄の困難を感せざりしも今日險峻の山路と車を岩ゐ爲め渴すること甚だ大く漸くにして險峻の山路ゐ超へ鎔間に下り水を求ひれば鎔川と雨時の際れみ水あるものと見へ一滴れ水ざるを見ず渴を忍んで終日歩行せ上山路と云ひ旁々數層の困苦なりしゐ尙は晩餐を炊かんとせるゐ水なきテント外より四方を望見すれば遙に一點の火光を聽む依て月明ゐ道を探りて山と下り鎔を超へ點火を目的に進く聽すると得たり歩々遙遠それば去遠い岩壁の間ゐ顧れ清く又涼しく余等と憐むが如く又慰むるが如し急等を去て峠山の古詩を朗唱ゐ浮べ考めたり家ゐ少水を乞ん農夫ルームゐ誘ひ水を得たり水を得たる時ゐ十時なり

十一月五日　昨日も我進行を妨げんと襲め暫し余等を驚まし旅裝と終日の疲れと思へば又面白山路凸凹行路の目的は此峠山より車を引ひて出降ス道の凸ゐ之を覆し遂に八に旅亭一戶あり前路は雨にして道路は雨回なるを知らず人後ろより之を呼て漸くに去て降する迄の路程六平野ゐ去て中々平坦廣濶にして蔭の森を認む之を目的に進むと人家一戶もなし圍狀を殘すのみ馬に跨りたる農逃に人家あり之を詮方あり同設け水を乞ふて且つ種々にして且つ種々十一月六日　此くるを以て旅亭行々四方を眺む み其他は露烟霧八英里道路に橫ノッス（Los-Bun-

旅亭ハ支那人の旅亭ハ支那人の家業ゐ且此近傍ゐ去る或い牧畜を營ス服せり此の如く以て白人と拮ス至りたるものゐ せんとも路傍一薬の下ゐ眠の場所光を見ゐ是ゐ去り耕耘に着手ゐ より二人の支那人譚經維と云ひ二人中には珍しゐ 地ゐ入るものゐ余等の少なゐ余等の殊に を促すもの殊に

○朝鮮遊覽日誌

西新里（南陽縣）

西新里は陽城縣東に當れり該縣は二面い飛び地に洞とゐ去戶數二百の斬新ゐ投宿せん城は北東に當ゐ三十里いき此邊廣接せる府縣にい一い撮風を取り の碧古來郡縣の改せざるが如き制度 なを不便少なから